

「日本復興の先導」を目指して — 8つのプロジェクトと復興アクション100+

東北大学は、東日本大震災の被災地域における中核大学として、被災からの復興・日本再生を先導する「災害復興新生研究機構」を設置。8つのプロジェクトと「復興アクション100+」を推進しています。

(災害復興新生研究機構HP: <http://www.bureau.tohoku.ac.jp/president/open/idrrr/>)

<8つのプロジェクト>

- | | |
|-------------------|-------------------|
| ①災害科学国際研究推進プロジェクト | ⑤東北マリンサイエンスプロジェクト |
| ②地域医療再構築プロジェクト | ⑥放射性物質汚染対策プロジェクト |
| ③環境エネルギープロジェクト | ⑦地域産業復興支援プロジェクト |
| ④情報通信再構築プロジェクト | ⑧復興産学連携推進プロジェクト |

①災害科学国際研究推進プロジェクト

新たな学際的研究拠点として「災害科学国際研究所」を設置し、防災・減災技術の再構築から、災害記録の後世への伝承など、文系・理系の垣根を越えた「実践的防災学」を創成します。



被災地の「今」を記録する、みちのく農録伝



災害科学国際研究所 今村教授が被災状況や今後の防災対策について天皇皇后両陛下へご説明 (2012年5月12日、宮城県庁にて)
写真: 宮城県広報課提供



災害科学国際研究所 上掲式



最先端の設備を持つ総合地域医療研修センターで研修



東北メディカル・メガバンク機構
地域医療に関する意見交換会 (七ヶ浜町にて)

②地域医療再構築プロジェクト

●総合地域医療研修センター…被災地域の医療人を受け入れ再教育を行うことで、地域医療を担う人材を育成します。

●東北メディカル・メガバンク機構…医療情報とゲノム情報を組み合わせたバイオバンクの構築、地域医療情報連携基盤の構築、高度専門人材の育成により、未来型医療を築きます。

③環境エネルギープロジェクト

被災地域のニーズに応じた、災害に強く地球にも優しいエネルギーシステムを提言し、エネルギー面からの東北地方の復興を目指します。

④情報通信再構築プロジェクト

携帯電話の不通など、震災で浮き彫りとなった情報通信の脆弱性の課題を解決し、災害に強い情報通信ネットワークを実現します。

⑤東北マリンサイエンスプロジェクト

東北太平洋沿岸域の漁場環境の変化過程を追跡し、震災が海洋生態系に与えた影響を調査するとともに、水産業の復興を支援します。

⑥放射性物質汚染対策プロジェクト

- 放射性物質に汚染された土壌の除染法などを研究し、取り除いた放射性物質を有効利用する技術の開発を目指します。
- 被曝した牛などの動物の臓器を分析し、放射性物質の環境媒体を通じた生体への影響を研究します。



福島市内保育園での除染作業

⑦地域産業復興支援プロジェクト

地域企業の幹部や次世代経営者などを対象とした「地域イノベーションプロデューサー塾」を開講し、東北地域の産業復興に貢献する人材の育成に取り組めます。

⑧復興産学連携推進プロジェクト

被災地の経済復興の基本となる産業基盤の革新・強化のため、本学のもつシーズを活用し、産学連携による事業化によって、地域経済の復興を支援します。

<復興アクション100+>

「復興アクション100+」は、東北大学教職員が自主的に取り組む100以上の復興支援プロジェクトです。各研究科・研究所等で、それぞれの強みや特色を活かした活動に取り組んでいます。

農学研究科 「食・農・村の復興支援プロジェクト」

安全安心で持続可能な食の確立、農林水畜産業の復興、農・漁村の復興に関する支援を行っています。

研究科の2/3以上の教員が参画し、「菜の花プロジェクト」、「マガキ養殖復興支援プロジェクト」、「福島原発20km圏内に取り残されたウシの保護プロジェクト」など、多面的な取り組みを実施しています。

(HP: <http://www.agri.tohoku.ac.jp/agri-revival/>)



加齢医学研究所 「スマート・エイジング出前カレッジ」

被災地域の公民館などで、『健康的な加齢とは何か』、『愉しく老いるためのノウハウ』など、身近な科学をわかりやすく紹介する「出前」講義を行っています。

被災地域の住民の方々に、自らの健康に関心を持っていただき、復興への意欲・活力につながることを目指しています。

(HP: <http://www.idac.tohoku.ac.jp/demae/index>)



2012年度を迎えて — 今後の取り組み

2012年度を迎え、震災発生から1年以上が経過しましたが、本格的な復興のためにはまだまだ東北や日本の将来を見据えた長期的な取り組みが不可欠です。今後も、産学官の連携を一層強め、東北復興のための課題解決に努めるとともに、広く全世界の英知を結集し、世界トップレベルの教育・研究拠点として社会に貢献することが求められています。

東北大学は地域とともに100年の歴史を刻んできました。今回の東日本大震災に際しても、多くの方々から温かい励ましをいただきました。

その感謝の気持ちを大切に、私たちの使命であるワールドクラスの研究・教育に取り組むとともに、被災地の中心にある総合大学として、東北の復興と日本の再生を力強く牽引していきます。